第2期盛岡市中心市街地活性化基本計画（概要版）

＜第２期計画における中心市街地活性化の考え方＞

平成25年11月29日認定

盛岡市の中心市街地は，景気低迷による商店数や小売年間販売額の減少のほか，郊外型大規模小売店舗の影響や各事業所数の減少，空き店舗の増加などによる吸引力の低下が見られており，このままでは街の活力が徐々に失われる。しかし，中心市街地は、県都盛岡の中核として，地域の持続的な発展の牽引役を強く期待されている地区であり，早急に商業活性化策や観光・歴史・文化の振興策及びコンパクトで利便性の高い都市機能の充実が求められている。

このため盛岡市では，第1期中心市街地活性化基本計画の成果を活かしながら，便利で暮らしやすく，賑わいと魅力に溢れ，少子高齢社会に対応したコンパクトで持続可能なまちづくりを目指し，第2期計画を策定し，引き続き中心市街地の活性化に取り組むものである。

＜中心市街地の現状分析＞

①人口関連

●マンションの建設が継続しており，中心市街地の人口は増加傾向にあるが，大通，中央通地区では人口が平成24年に減少に転じ，今後横ばいとなることが見込まれる。

②産業関連

●小売業（飲食店除く）の店舗数・年間販売額・売場面積の減少が続いている。
●事業所数・従業者数の減少が続いており，シェアも低下している。
●郊外への大型店進出が続き影響が見られる。
●消費購買動向も郊外への流出が続いているが，商圏ウエイトの下げ止まりが見られる。
●空き店舗数は，平成21年度をピークに横ばい傾向。

③交通関連

●都心循環バスの利用者は減少しているが，一定の水準を保っている。
●中心市街地歩行者・自転車通行量は下げ止まりにある。
●公共交通機関の利用が伸び悩んでいる。

④観光関連

●もりおか歴史文化館の整備により観光施設全体の入込数は増加しているが，既存施設は入込数が減少している。
●宿泊施設数は減少したものの，収容者数は増加している。
●盛岡市街の観光客入込数及び宿泊客数は増加の兆しが見られる。

⑤都市機能関連

●公共公益施設が集中しているが，一部機能の近接地区への移転が見られる。
●医療・介護施設及び教育施設が集中しているが，大学病院の移転が予定されている。
●マンションが集中しており，新設も続いている。
●地価は下落が続いている。

⑥市民意見（市民アンケート調査）

●中心市街地に魅力を感じている人の割合が低下しており，中心市街地以外の居住者が魅力を感じないとした割合が高い。
（H18:17.6%→H24:13.1%）
●自然豊かで都市機能が集積しているが，高齢者が利用できる施設や魅力ある店舗が少ないとのイメージがある。
●あるべき姿としては、交通の利便性が高く，安全安心に歩け，幅広く用が足せるまち。

＜第１期中心市街地活性化基本計画の評価＞

- 計画期間内に事業着手が困難となり，想定した効果を見込めなくなった事業があるものの，３つの目標指標のうち，市街への観光客入込数は目標指標数値を達成し，総合的な観点からすれば活性化に一定効果があったと考えられる。
- 「大通三丁目地区再開発ビル建設事業」及び「歴史文化施設整備事業」により整備された施設の立地場所近辺の通行量に増加が見られた。
- 八幡町の道路整備を機に，当該地区の事業者や住民によるまちづくりの機運が高まり，市民主体による定例イベントの開催等計画事業を補完する活性化事業が行われた。
- 事業効果の発現が，事業実施地区の狭い範囲に留まっており，周辺への波及効果をもたらすまでには至っていない。
- 観光客の入込は，震災の復興支援やいわてデスティネーションキャンペーン，東北六魂祭など特殊要因による増加が含まれており，再来してもらうためのソフト事業の充実が必要となる。

＜盛岡市の概要＞

Ⅰ概要

人口約30万人。岩手県の人口の約22%を占めている。

面積は，886.47k㎡。周辺に滝沢村・矢巾町などの人口の多い町村を抱え，盛岡広域生活圏（2市6町村）の人口は約48万人である。

平成20年4月，中核市に移行した。

Ⅱ位置・地形

北上盆地の北部，北東北三県の中央に位置する。まちの北西部に位置する岩手山は市内から眺望できる。また，市内を３本の川が流れており，白鳥の飛来地として市民の憩いの場となっている。

Ⅲ歴史

盛岡市の中心市街地の骨格は，およそ400年前，南部氏が市内中心部に盛岡城の築城を開始したこと始まり，江戸期は盛岡藩20万石の城下町として栄えた。

明治22年から市制施行。当時の人口は29,190人であったが，以後，周辺町村との合併，周辺宅地開発、高速交通網の整備により人口が増加。平成4年に都南村，平成18年に玉山村と合併。

Ⅳ公共施設・公共交通機関

市中心部には，市庁舎のほか，県庁，県警，消防本部，国の合同庁舎などの官公庁が立地。また、岩手県の医療を担う岩手医科大学附属病院や高度救命救急センターなどの高度医療施設が立地しているが，国の機関の一部が盛岡駅西口地域に移転し，岩手医科大学附属病院も矢巾町への移転計画がある。

市民はよくバスを利用しており，市内循環バス「でんでんむし」は高い乗車率を誇る。また，盛岡駅は東北新幹線と秋田新幹線の結節点であり，交通の重要な起点となっている。

Ⅴ産業

主要産業は第3次産業となっている。

中心市街地の商店街では，積極的にイベントを開催し，まちに賑わいを生み出している。

しかし，郊外への大規模小売店舗の出店は継続しており，商店街への集客に影響を及ぼしている。

Ⅵ観光

「チャグチャグ馬コ」，「盛岡さんさ踊り」、山車が中心市街地を練り歩く「盛岡秋祭り」など見所は多い。冬には盛岡城跡公園のライトアップが美しい。観光客入込数は平成19年をピークに減少していたが，宿泊客数は増加の兆しが見られる。

課題

①生活する上で便利な機能の充実
商業施設や医療・介護福祉関連施設の整備，賑わい創出

②中心市街地を快適に楽しむための基盤整備
道路や融雪施設等の社会インフラ整備

③特色ある地域資源のブラッシュアップ
歴史的建造物，祭事等の磨き上げ

盛岡駅周辺エリア
大通・菜園エリア
盛岡城跡公園周辺エリア
河南エリア

特徴を活かす

基本方針

① 商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地の形成
② 暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成
③ 盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成

＜中心市街地エリアの設定＞

第１期計画と同様に盛岡市民にとって「中心市街地」という言葉で容易に想起される地域。盛岡駅・盛岡城跡公園・バスセンターを結ぶ範囲を中軸とした約218haとする。

基本方針に基づき，2目標を掲げ，57事業を展開する

目標達成のための指標

目標1　賑わいあふれる中心市街地		目標2　訪れたくなる中心市街地	
中心市街地の歩行者・自転車通行量	大通コアエリア周辺の居住人口	盛岡市街の宿泊者数	もりおか歴史文化館の入館者数
48,332人（H25.3月） ↓ 52,000人（H30.3月）	5,202人（H25.3月） ↓ 5,400人（H30.3月）	50.0万人（H22） ↓ 56.2万人（H29）	25.1万人（H24） ↓ 27.0万人（H29）

4つの成果指標を設定し、中心市街地の活性化を図る尺度とする。

＜第２期盛岡市中心市街地活性化基本計画　57事業＞

○市道舗装新設改良工事（市道岩手公園開運橋線（菜園工区））
○（都計道）明治橋大沢川原線（大通）整備事業
○（都計道）盛岡駅南大通線（大沢川原）整備事業
○（都計道）盛岡駅長田町線整備事業
○交通安全施設整備事業（市道南大通一丁目5号線外）
○自転車走行空間整備事業
○自転車駐車場整備事業
○盛岡駅前交差点改善事業
○ひとにやさしいみちづくり事業
○（仮称）河南地区駐車場活用事業
○（仮称）盛岡駅前地下街リニューアル事業
○盛岡城跡保存整備事業
○お城を中心としたまちづくり事業
○つどいの広場管理運営事業
○赤ちゃんの駅設置事業
○盛岡バスセンター再整備事業
○（仮称）岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業
○（仮称）中央通ビル活用事業
○もりおか歴史文化館教育普及・学芸事業
○町なか情報センター運営事業
○中央通二丁目地区優良建築物等整備事業
○八幡町地区優良建築物等整備事業
○市税の減免制度
○大規模小売店舗立地法特例区域の設定の要請
○フラワーバスケット事業
○商店街イベント事業
○商店街活性化支援事業
○夏祭り（盛岡さんさ踊りの開催）
○盛岡おもてなし度UP事業

○空き店舗活用促進事業
○商店街研修事業
○盛岡市農業まつり
○盛岡城跡公園イルミネーション事業
○いしがきミュージックフェスティバル
○商店街組織強化支援事業
○「映画の街盛岡」推進事業
○映画祭開催事業
○盛岡スクエア事業
○商店街情報発信事業
○盛岡もの識り検定
○もりおか広域まるごとフェア
○いち（市）の開催
○冬季観光イベントの実施
○盛岡小さな博物館整備事業
○盛岡八幡平観光圏整備事業
○盛岡ブランド推進事業
○都市ブランド戦略的情報発信
○材木町石組遊歩道活用事業
○もりおかまちなかセミナール（もりゼミ）開催事業
○もりおかまちなか（ラリー）検定事業
○中津川観文化施設連携事業
○まちなか虹色プロジェクト
○バス運行情報提供施設整備・更新事業
○都心循環バス運行事業
○ノンステップバス等導入促進事業
○まちなか・おでかけバス事業
○バスの日まつり開催事業